

情 報

「連携教育」学生セミナー参加報告

Experience of the Interprofessional Education Students Seminar

明倫短期大学歯科衛生士学科

山田隆文

Takafumi Yamada

Department of Dental Hygiene and Welfare,

Meirin College

キーワード：連携教育

Keywords：Interprofessional Education

1. 緒言

共生型大学連携による新潟県の人材確保・養成の短期的及び包括的施策による地域貢献(代表校新潟青陵大学)を目的に、県内の医療福祉系大学・短期大学が連携をして、講師として、英国CAIPE (Center of Advanced Interprofessional Education)において開発マネージャーとして活躍されている、IPE (Interprofessional Education)ファシリテーターの第一人者であるHelena Low女史を招いて、新潟医療福祉大学が中心となり、「連携教育ファシリテーター養成講座」および共生型大学連携「連携教育」学生セミナーが開催された。

このセミナーに、明倫短期大学からは教員3名と学生4名が参加し、チーム福祉・医療の重要な知見を得たので参加報告を行う。

2. 目的

医療・福祉の現場は、単に病気の治療やリハビリテーションをするだけでなく、患者さんを中心に精神・物理両面のクオリティ・オブ・ライフをいかに維持するかをサポートする時代である。

しかし、各職種がばらばらに行動しては、この目的を達成することは難しい。それぞれが患者情報を共有することで、始めて治療・ケア方針がおなじ目標に向かうことで、患者さんのニーズを満たすことが出来る。

今回は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、歯科衛生士、ソーシャルワーカーその他、数多くの医療福祉系職種を目指す学生が、チームアプローチのための専門職間教育 (Interprofessional Education) のトレーニングを行った。

3. ワークショップの流れ

1) 第1日目 (8月17日)

① Helena Low女史講演

「英国における連携教育の実際」

「連携教育の視点から事例を読み解く」

② グループワーク

「事前の予習及び明日の実習への準備」

2) 第2日目 (8月18日)

病院・施設訪問

医療機関、福祉施設に出向き、紹介された事例について病室や家庭訪問により、実際の患者さんと対面することで情報収集した。

3) 第3日目 (8月19日)

① グループワーク

「グループ別に事後の事例検討」

グループ毎に経験した事例の問題点と解決の戦略を考えて検討する。

② グループ発表、討論会

〈参加大学および施設〉

新潟大学・新潟県立看護大学・敬和学園大学・長岡大学・新潟医療福祉大学・新潟薬科大学・新潟リハビリテーション大学院大学・明倫短期大学・長岡造形大学・新潟国際情報大学・新潟工業短期大学・新潟青陵大学短期大学部・新潟青陵大学及び10か所の病院・施設が協力。

4. 参加学生の感想

1) 石橋弥生 (専攻科口腔保健衛生学専攻)

私たちのグループは、社会福祉士、薬剤師、言語聴覚士、歯科衛生士のグループでした。歯科衛生士として歯科医師、歯科技工士と連携し、患者さんについて治療計画をたてますが、口腔領域を主としています。一人では気付かなかったことも、様々な目線から見ると、多くの問題点が挙げられました。連携して患者さんを見ると、患者さんが本当に望んでいること、もっと勉強しなければいけないことなど多くのことがわかりました。

この他にも多くの専門職がいましたが、みなさんとも意欲的で、圧倒されました。私にとっても充実した3日間でした。

2) 金子由希 (専攻科口腔保健衛生学専攻)

私のグループは、医師2名、看護師、薬剤師、社会福祉士の有資格者と目指す人、そして歯科衛生士の自分を含めた6名でした。

グループの皆が全身に関する意見を出し合う中で、歯科に関する職業は私ひとりだったのに、なかなか意見を言えず、患者さんの口腔を健康に保つための最大限の努力をできなかったのですごく後悔しました。しかし、今まで歯科医院に来院する患者さんの口腔内の問題しか考えていませんでしたが、それ以外にも全身的な問題を抱えていることもあると再認識することができました。

歯科衛生士は患者さんの不安を取り除き、よりおいしく食べることをサポートできる、素晴らしい職業です。

情 報

全身の疾患に比べ軽視されがちな口腔内の管理の担い手として、歯科衛生士は重要な役割を果たします。しかし、歯科医院に来院する患者さんが皆、必ずしも口腔内の問題を1番大きな悩みとして抱えているわけではありません。患者さんの身体に関する問題をすべて解決するためには、他職種間で連携しそれぞれの視点からケアしていく必要があります。

歯医者は虫歯になったら行くところ、と一般的に考えられていますが、歯が痛くなったから歯医者に行くのではなく、あの歯科衛生士さんに会いに歯医者に行く。私は患者さんに、そう思ってもらえるような歯科衛生士を目指していきたいとこのセミナーを通して改めて思いました。

3) 末永愛 (専攻科口腔保健衛生学専攻)

「連携は大切」ということは講義でよく聞いていましたが、実際に他の職種の人たちと論議を進めることは始めてだったのでとても良い経験になりました。初めて会う人と話し合いをし、患者さんの問題点・改善点などみていくことについて、緊張や不安が大きかったのですが、実際に同じ班の人と話をしてみるとそんな心配は一切なく、楽しんでセミナーを受けることができました。

反省として、他職種と連携を取る時は、まず自分の出来ることについて理解・説明出来なければ何事も始まらないので、もっと知識をつけなければならないと感じました。また自分の職だけでなく他職種への理解がなければならないことなど、多くをセミナーで学ぶことが出来たので、機会があれば次も参加してみたいと思います。

4) 佐藤直美 (歯科衛生士学科3年)

私が入ったグループのメンバーは、歯科衛生士、社会福祉士、看護師、薬剤師の4業種5名の学生と、言語聴覚士、薬剤師、義肢装具士の先生が割り当てられました。先生方も学生も、それぞれ専門分野が違ったため、患者さんに対して多方面からの見方ができ、互いを理解するためにもとてもいいメンバー構成だったと思います。

自分の仕事をよく理解しわかりやすくメンバーに伝えると共に、他職種の仕事を出来る限り理解したうえで皆さんと協働していくことがどれだけ大変で、どれだけ大切かを痛切に感じました。

また、私自身の問題点にも気づくことができました。歯科口腔介護は、看護、介護の現場ではどちらかという負担感が重く後回しにされがちです。しかし、口腔内の問題だけに止まらず全身管理にもとても重要な分野です。これをどれだけ他職種に伝えて理解して頂けるかを今回の自分の課題と見据えて臨んだのですが、自分自身でも気づいていない心の中に「歯科口腔介護は後回しに

されるもの」という決め付けがどこかにあり、訪問した病院での担当看護師さんへの質問の際、自分がものすごく遠慮しているということに気づかされました。私自身が患者さんの健康を守るという意識に欠けていたのだと気づかされたのです。それに気づけたおかげで最終日は積極的に発言することが出来、自分の壁を突き壊すためにも役に立ったセミナーだったと思います。

このセミナーは参加してみないと協働の大変さ、必要性がわからないと思います。ぜひ来年以降も開催して、未来の医療従事者であるたくさんの学生に学ぶ場を提供していただければ将来に向けてよりよい医療の提供に繋がっていくものと考えます。

5. 終わりに

今回のワークショップにはファシリテーターとして参加をし、グループの異職種を目指す学生たちが、慣れない症例に四苦八苦し、また、実際の現場を見、患者さんと触れ合うことにより、始めは不安と緊張していた目の輝きが劇的に変化していくところを目の当たりにした。参加した教員も学生も「非常に楽しかった」という感想を述べていた。

歯科医療現場も、歯科医師と歯科衛生士、歯科技工士ばかりでなく、多くの医療・福祉職の協力の下に成り立っている。それぞれが、お互いの職種を理解し、患者さんの情報を共有し、それぞれの意見を述べる事で、始めてチームとしての連携が成り立っていく。

そのためには、教員には広く外の学校がどのような教育を行っているのかを客観的に経験し、ファシリテーションのテクニックを学び、学生には臨床の現場に出る前にチーム医療のトレーニングを是非経験しておいて欲しいと思う。今後、講義や実習の中で取り入れる方法を検討していきたい。

2009年度附属歯科診療所報告

金子 潤¹、石井多恵子²、生野美絵³、青木さつき⁴、鴨井公子⁵、

¹診療所長、²歯科医師、³副歯科衛生士長、⁵ことばクリニック室長、⁴歯科衛生士

附属歯科診療所は、今年度新規採用スタッフ5名(歯科医師2名、歯科衛生士2名、言語聴覚士1名)が加わり、より質の高い歯科医療の提供と実習生教育の充実を目指して、スタッフ全員が努力した1年であった。以下